

さくらの実り基金 設立趣意書

子どもNPOセンター福岡は、子どもの幸せと健やかな成長を願う市民からの寄付を原資として、福岡市を中心とした福岡県域での子ども・子育て支援を行う団体を応援する基金を設立します。

【設立の背景】

66万人の「声をあげにくい人たち」

福岡県には現在、約66万人の子ども（年少人口, 2022年）が暮らしています。子どもは本来、地域で、親や友達、学校の先生、その他様々な関係のなかでケアされ、見守られながら成長しますが、社会のありようによって、その関係が希薄化し、ときには孤立した緊張関係の中で暮らさなければなりません。また、経済的に困窮することで、様々な複合的な課題に直面し孤立する子育て世帯の「見えない貧困」という問題も厳然としてあります。「子どもの権利」を大切にしたいと願いながらも、葛藤するおとなたちもまた、助けを必要としています。

地域に^{ひろ}拓かれた福祉であるために

そういった状況のなかで、普段通る場所や、気軽に立ち寄れる場所にある「子どもの居場所」、一緒に調理をしたり食事をしたりすることで地域に顔見知りができる「子ども食堂」、様々な課題の中にある子どもや親同士が気持ちを吐露し合えるピアサポートの場を作る取り組みは、意義のある活動です。また、福岡市の里親養育支援の取り組みは、地域の中での様々なケアニーズへの気づきや、ケアを担うことのできる人材の育成などを通して、専門性を高めながらも、まちの中に生活者として暮らすことで、閉ざされがちな社会的養護や福祉の世界を、地域に^{ひろ}拓いていく重要な役割を持っています。

公的機関による支援（フォーマルケア）と民間等による支援（インフォーマルケア）の役割

子どもを取り巻く社会課題に対して、公的機関の担う役割は重要なものです。児童相談所をはじめ、2024年度からは各区に設置される「こども家庭センター」が、予防も含めた児童虐待防止と子どもの権利擁護のための対応に当たります。しかしながら、公的ケアが全ての世帯に関わり、問題を解決できるわけでは無論ありません。たとえばファミリーサポートやショートステイなど、そこに住まう人々の力を生かしながら子育て支援ができるようマネジメントを行ったり、支援者が困ったときに後方支援に回ったりできるような体制を備えておくことも、今必要な役割として構築・強化がなされ始めています。多様な市民が虐待予防への役割を持てるようなデザインが必要です。

民間等による支援（インフォーマルケア）だからこそできることが多くあります。それぞれの役割を理解しながら、子どもにやさしいまちづくりを一緒に進めていく姿勢が今求められています。

【本基金のコンセプト】

■草の根でのつながりづくりを支える

福岡市内には子どもの課題に取り組む団体が、ボランティアセンターに登録されているだけでも 400 余り（県域ではさらに多く）ありますが、そのほとんどは年間予算 100 万円以下の、おそらく事務局を持たないか、あるいは小規模である団体と推察されます。私たちは、本基金の運営を通して、こういった草の根でのコミュニティケアを行う団体が、これまでの努力を労いあいながら、活動を継続し、より安定した形で地域のつながりづくりの役割を果たせるよう支援します。



■見えないニーズと向き合う

子ども・子育て支援サービスは、公的なものから企業サービスなど市場化されているものも含め、多様になりつつあります。この基金では、フォーマル化、市場化されるケアの効果と副作用とを丁寧に見つめながら、そこをつなぐ領域として、民間等による支援（インフォーマルケア）が日の当たりにくいニーズにどう応えていくかを考えます。

■拓かれた場であるための支援

この基金によって、団体の組織基盤が強化されることは期待される効果の一つとなりますが、活動規模が拡大する、あるいは団体の規模が大きくなっていくことそのものを支援するものではありません。必要な人へきちんと情報が届くように、そこが拓かれた場であり続けられるために。日々慌ただしい支援の現場が、ちょっと手を止めて、誰かと話したり、目の前のことから一度離れて、自分の活動のことを振り返ったりできるような支援になればと願います。

さくらの実り基金 応募要項

●助成対象団体

- ・子どもや子育てを支援する活動を行う団体（法人格の種別・有無を問いません）
- ・福岡県内で活動している団体
- ・直近3か年の決算の平均がおよそ300万円を超えない団体
- ・過去にこの基金に採択されていない団体
- ・活動実績が3年以上

●助成額

- ・1団体35万円
- ・最大10団体（年度）

●審査内容：以下の内容について申請書を提出し、審査会により選考

1. 直近3年間で、福岡県内で行った子ども・子育てに関する活動について（800字以内）
<記載にあたって押さえないポイント>
以下が分かるよう記載してください。
 - ・活動を始めたきっかけ
 - ・子どもや子育てを取り巻く社会課題に、どのように取り組んできたか
 - ・どのような課題を感じているか（その活動ならではの発見）
 - ・どのように、無理のない形で、地域の人材、資材などを生かしているか
 - ・子どもが、活動に参画しているのか、または、参画の工夫をしているのか
2. あなたの団体のアピール（5項目）（各項目100文字以内）
3. 採択された場合、基金の使い方を誰とどんな風に決めるか（300字以内）

<その他の提出書類>

- ・団体の活動主旨が分かるもの（定款、規約、会則、活動報告など）
- ・直近3か年の決算報告書（収支がわかるもの）

●選考方法

第1次選考 応募書類審査

第2次選考 ヒヤリング審査（オンライン） 団体から3名の出席をお願いします。

●採択後の条件

- ・助成金使用期間後会計報告・活動報告書を提出してください（様式は自由）
活動については後日報告会で発表していただきます。